

作成日: 1996年1月16日

改訂日(V.12): 2017年2月13日

# 安全データシート

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称: **グラステン水和剤**

会社名: 日本農薬株式会社  
 住所: 〒104-8386 東京都中央区京橋 1丁目 19番 8号 京橋OMビル  
 担当部門: 環境安全部  
 TEL. 03-6361-1426, FAX. 03-6361-1451  
 e-mail: kankyouanzen@nichino.co.jp

緊急連絡電話番号: (平日) 03-6361-1426 (環境安全部)  
 (休日、夜間) 04-2929-8961 (ALSOK)

推奨用途及び使用上の制限: 農薬(芝用殺菌剤)、農薬登録以外の使用は不可

SDS番号: 508-12(M36)

## 2. 危険有害性の要約

### GHS分類

物理化学的危険性	自然発火性固体	区分外
健康有害性	急性毒性(経口)	区分外
	急性毒性(経皮)	区分外
	急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)	区分外
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分1(呼吸器/吸入ばく露)
環境有害性	水生環境有害性(急性)	区分1
	水生環境有害性(長期間)	区分2

上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

### GHSラベル要素

#### 絵表示



注意喚起語	危険
危険有害性情報	長期にわたる、又は反復ばく露による臓器(呼吸器/吸入ばく露)の障害 水生生物に非常に強い毒性 長期継続的影響によって水生生物に毒性

#### 注意書き

##### 【安全対策】

- 粉じんを吸入しないこと。
- この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- 取扱い後は手をよく洗うこと。
- 必要なとき以外は環境への放出を避けること。

##### 【応急措置】

- 気分が悪いときは、医師の診断を受けること。
- 漏出物を回収すること。

##### 【保管】

**【廃棄】**

- 内容物、容器を法、条例等に従って安全に処理する。または都道府県知事等の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理する。

他の危険有害性：特になし。

**3. 組成及び成分情報**

化学物質・混合物の区分：混合物

有効成分化学名(一般名)

- 1)  $\alpha, \alpha, \alpha$ -トリフルオロ-3'-イソプロポキシ-*o*-トルアニリド  
(一般名 フルトラニル)
- 2) ジイソプロピル-1,3-ジチオラン-2-イリデン-マロネート  
(一般名 イソプロチオラン)

成分及び含有量：

成分	含有量	CAS No.	安衛法 No.	化審法 No.
フルトラニル	25.0%	66332-96-5	4-(7)-1442	(3)-3925
イソプロチオラン	20.0%	50512-35-1	8-(6)-21	—
<その他>				
シリカ(非晶質)	20.0%	112926-00-8 7631-86-9	—	(1)-548
鉍物質微粉等	残	—	—	—

**4. 応急措置**

眼に入った場合：清浄な流水で数分間洗浄する。眼球、まぶたの隅々まで水がよく行きわたるように洗う。コンタクトレンズを着用していて容易にはずせる場合ははずし、その後も洗浄を続ける。医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合：汚染された着衣、靴等を速やかに脱がせる。付着部を水と石鹼でよく洗浄する。異常がある場合は、医師の診断を受ける。

吸入した場合：被災者を直ちに空気の新鮮な場所へ移す。異常がある場合は医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合：口の中をすすぎ、カップ1～2杯の水を飲ませる。意識の無いときは、口から何も与えてはならない。医師の診断を受ける。

**5. 火災時の措置**

消火時の注意：火災活動には適切な保護具を着用し、風上より作業をする。燃焼または高温により刺激性又は有害なガス(硫黄酸化物、フッ化水素等)の発生するおそれがあるので、発生するガス、煙、ミストを吸い込まない様に注意する。汚染水などが下水や河川等の水系に流れ込まない様に適切な処置を取る。

消火剤： 粉末、泡沫、炭酸ガス、霧状水、水、砂

使ってはならない消火剤：情報無し。

## 6. 漏出時の措置

付近の人を風上に避難させ、漏出現場への立ち入りを禁止する。適切な保護具(保護衣、保護眼鏡、保護マスク等)を着用して、眼や皮膚に触れたり、ガスや粉塵を吸い込まないようにする。漏出物を飛散しないように集め、密封できる容器に回収する。その後、汚染された場所を水で洗う。漏出物や洗浄水等が河川、下水等に流出し、環境へ影響を与えないように措置する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い： 局所排気装置を設置し、換気の良い場所で行なう。粉塵を吸いこんだり、眼、皮膚に触れないようにする。適切な保護具を着用し、風上から作業する。作業後は、速やかに眼、手、顔をよく洗う。

保管： 容器を密閉し、火気、直射日光を避け、乾燥した換気のよい冷暗所に保管する。食物、飼料等と離して、無関係者、子供の手の届かない所に施錠して保管する。

## 8. ばく露防止及び保護措置

設備対策： 局所排気装置を設ける。取扱い作業場の近くに洗眼、洗面、うがい、手洗い、安全シャワー設備を設置する。

個人用保護具： 状況に応じた適切な保護具を着用する。  
保護マスク、防塵マスク、ゴーグル、保護眼鏡、保護衣、ゴム手袋  
作業時に着用していた衣類等は他のものと分けて洗濯する。

## 9. 物理的及び化学的性質

外観： 類白色水和性粉末  
臭い： データ無し。  
比重： データ無し。  
pH： データ無し。  
引火点： 該当しない。  
自然発火性： 常温で空気と接触しても自然発火しない。

## 10. 安定性及び反応性

化学的安定性： 通常の実用条件では安定。  
危険な反応： 知られていない。  
危険有害な分解生成物： 燃焼又は高温などにより有毒な気体(硫黄酸化物、フッ化水素等)を生成する。

## 11. 有害性情報

急性経口毒性： ラット LD<sub>50</sub> 値 (mg/kg) ♂, ♀ >5000  
急性経皮毒性： ラット LD<sub>50</sub> 値 (mg/kg) ♂, ♀ >5000  
急性吸入毒性(粉じん、ミスト)： 混合物に 1%以上含まれる成分で毒性情報のあるものは、区分外の成分のみであることから区分外とした。毒性未知成分量は 75%。  
特定標的臓器毒性(反復ばく露)： 区分 1 (呼吸器/吸入ばく露)に分類される非晶質シリカを、濃度限界値の 10%以上含有することから区分 1 (呼吸器/吸入ばく露)とした。毒性未知成分量は 54.4%。

## 12. 環境影響情報

水生環境有害性(急性)：  
オオミジンコの毒性データにより区分 1 とした。  
水生環境有害性(長期間)：  
慢性区分に分類される成分含量から推定して区分 2 とした。毒性未知成分量は 33.8%。

生態毒性：

コイ	LC <sub>50</sub> 値/96h	12.5 mg/L
オオミジンコ	EC <sub>50</sub> 値/48h	0.32 mg/L
緑藻*	EbC <sub>50</sub> 値/0-72h	9.0 mg/L
	ErC <sub>50</sub> 値/24-48h	14.4 mg/L
	ErC <sub>50</sub> 値/24-72h	18.3 mg/L

(\* *Pseudokirchneriella subcapitata*)

残留性・分解性： 製剤のデータ無し。

生体蓄積性： 製剤のデータ無し。

土壌中への移動性： 製剤のデータ無し。

オゾン層への有害性： 製剤のデータ無し。

### 13. 廃棄上の注意

法、条例等に従って安全に処理する。または産業廃棄物処理業者に委託し適切に処理する。  
空容器：内容物を使い終わった後、適切に処理する。

### 14. 輸送上の注意

容器に漏れの無いことを確かめ、転倒、落下しないように積載する。

国連番号： 3077

品名（国連輸送名）： ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N. O. S.  
(contains flutolanil)

国連分類： 9

容器等級： III

海洋汚染物質： 該当

緊急時応急措置指針番号： 171

### 15. 適用法令

農薬取締法

毒物及び劇物取締法：毒物及び劇物に該当せず。

労働安全衛生法

表示対象物(法 57 条、施行令第 18 条)：フルトラニル(政令番号 47)、イソプロチオラン(政令番号 263)、シリカ(政令番号 312)

通知対象物(法 57 条の 2、施行令第 18 条の 2)：フルトラニル(政令番号 47)、イソプロチオラン(政令番号 263)、シリカ(政令番号 312)

化学物質排出把握管理促進法(化管法)

指定化学物質：フルトラニル(第一種・政令番号 41)、イソプロチオラン(第一種・政令番号 191)

### 16. その他の情報

参考文献

1) JIS Z 7252: 2009、GHS に基づく化学物質等の分類方法

2) JIS Z 7253: 2012、GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル、作業場内の表示及び安全データシート (SDS)

本データシートの記載内容は、この化学品の取扱い時の安全性に関する参考情報であり、安全性や品質の保証をなすものではありません。また危険性、有害性の評価は、必ずしも充分ではありませんので、取扱いには充分注意を払って下さい。